２０１２年度

研究演習履修案内

関西学院大学商学部

目　次

１．研究演習選択に際して　……　１

２．２０１２年度　研究演習Ｉ履修選択要項　……　２

３．２０１２年度　研究演習担当者表　……　４

４．担当者別研究演習内容説明
（研究テーマ・使用テキスト・説明会･面談等・概要）　……　６

５．第二教授研究館（池内記念館）について　……　３５

１．研究演習選択に際して

「研究演習」は、第１・第２学年の基礎的科目を中心とした学習の上に立って、各担当教員の指導の下に、専門的学習と研究を行うために設置されている科目です。したがって、大学における学習と研究の集大成として、さらには将来に向かっての礎として、何をより専門的に学習し研究するのかを十分かつ慎重に考慮した上で選択し、志望することが求められます。また、「研究演習」は、学生と教員、学生と学生が、学問研究と人間形成のために切磋琢磨し合う場であると同時に、少人数教育を実践する場でもあります。そのため、各クラスの人数に一定の制限が設けられています。したがって、諸君全員の希望がそのまま叶えられるとは限らないので、慎重に考えて選択して下さい。

「研究演習」は、研究演習Ⅰ（４単位）と研究演習Ⅱ（４単位）により構成されています。「研究演習」は選択科目ですので、これを履修するか否かは皆さんの選択に任せられており、履修の義務はありません。ただし、「研究演習」を履修した場合には、皆さんは、その担当教員の所属するコース（経営コース、会計コース、マーケティングコース、ファイナンスコース、ビジネス情報コース、国際ビジネスコース）を選択することになります。こうした点も十分に理解した上で選択し、履修して下さい。

２０１２年度「研究演習Ⅰ」の選択手続の要領は次ページに詳しく書かれているので熟読して下さい。そして、この案内書で各演習の内容を十分に理解した後、９月１２日（月）からの説明会や個人面談の機会を積極的に活用し、志望する演習を決めていって下さい。１０月４日（火）以降は、皆さんの志望と定員に応じて各教員が選考を行います。その結果、所属を許可された場合には、皆さんは、教員から受けとる「所属申請書」に必要事項を記入して教員に提出し、教員からは「所属許可書」を受け取って下さい。これによって来年度の研究演習Ⅰの履修と所属先が決まる仕組みになっています。したがって、「研究演習Ⅰ」の履修を希望する学生は、１０月２１日（金）までに、必ず自ら教員のところに出向き、直接面談を受けた上で「所属許可書」の発行を受けなければなりません。

「研究演習」の選択は、短期間に多くの教員と面談できる又とないとても貴重な機会です。また、研究演習は大学生活の中で、非常に重要な位置を占めることになります。上記の点に留意しつつ、この貴重な機会を最大限に生かし、最善の選択をし、学生生活をより充実していかれるように願っています。

２．２０１２年度　研究演習Ｉ履修選択要項

（１）履修資格

２０１０年度以前の入学生で、下記授業科目の単位を２０１１年度終了までに修得または修得見込みであり、在学期間が２年以上の者(ただし､休学期間は在学期間に算入されない)。

〈研究演習Ｉを履修するために要求される先修科目〉

①第１外国語Ｉまたは「英語リーディングＩＡ・コミュニケーションＩＡ、インターミディエイト・イングリッシュＩ」または「英語リーディングＩＡ･コミュニケーションＩＡ、アドバンスト・イングリッシュＡまたはＢまたはＣ」

②下記第２外国語のいずれかの科目

・「フランス語読解ＩＡ・ＩＢ」、「フランス語表現ＩＡ・ＩＢ」または「フランス語読解ＩＡ･フランス語表現ＩＡ、フランス語インテンシブ 初級Ｉ」

・「ドイツ語読解ＩＡ・ＩＢ」、「ドイツ語表現ＩＡ・ＩＢ」または「ドイツ語読解ＩＡ･ドイツ語表現ＩＡ、ドイツ語インテンシブ 初級Ｉ」

・「中国語Ｉ・Ⅱ」

・「朝鮮語Ｉ・Ⅱ」

・「スペイン語Ｉ・Ⅱ（２００６年度以降入学生）」

③経営学基礎、簿記基礎、経済学基礎、統計学基礎、数学基礎Ａ・Ｂ、マーケティング入門、ファイナンス入門、国際ビジネス入門、ビジネス英書入門のうち、１４単位

（２）選考・申し込み方法

志望する研究演習担当教員の説明会に出席、あるいは個別に研究室を訪問して、志望研究演習を確定させる。担当教員との面談（志望理由書の提出を求められる場合もある）を経て、担当教員により所属が確定した場合は、担当教員から配布される所属申請書に必要事項を記入の上、所属許可書を担当教員から受け取る。最後に、所属の発表掲示を確認して研究演習所属が内定する。

（３）スケジュール

８月２４日（水）研究演習履修案内を関西学院大学ＨＰ内の商学部のページ、教学Ｗｅｂサービス上に掲載

９月１２日（月）◎第１回「コース選択および研究演習Ｉ履修のための説明会」
　　１５：００～１６：００　Ｇ号館３０１号教室

９月１３日（火）◎第２回「コース選択および研究演習Ｉ履修のための説明会」
　　１５：００～１６：００　Ｇ号館３０１号教室

９月２０日（火）担当者別研究演習説明会・個別訪問開始

１０月　４日（火）申込開始（所属申請書提出・所属許可書受領）

　　１２日（水）所属決定状況開示（継続募集中のゼミを公表）

　　２１日（金）申込最終日

１１月　４日（金）研究演習Ｉ所属内定者発表

（４）演習定員

１５～２０名

（５）注意事項

①所属許可書受領後、研究演習の所属変更・取消はできない。

②研究演習に所属が決定した者は、３年次にコース登録を行う際、所属する研究演習担当者のコースを選択し、登録しなければならない。

４月の履修申請時に、必ずコースを登録すること。

③複数の教員から所属許可書を受領した者は、どの研究演習にも所属できない。

④先修条件等が満たされないため研究演習を履修できなくなった者については、この選択は無効となる。従って、再度履修を希望する場合は、次年度改めて選考を受けなければならない。

以　　上

３．２０１２年度　研究演習担当者表

（５０音順）

担　当　者	研　究　テ　ー　マ	２０１１年度担当授業科目	コース	ページ
石淵　順也	マーケティング・リサーチに基づく 新製品開発と戦略策定	マーケティング入門、 マーケティング・リサーチ、 商学演習、研究演習	０３	０６
伊藤　秀和	Project-based Research Seminar 2012	数学基礎Ａ（解析）、 マーケティング入門、 ロジスティクス論、商学演習、研究演習	０３	０７
井上　達男	財務会計および国際会計の研究	財務諸表論、商学演習、研究演習	０２	０８
岡田　太志	「わが国保険システムの将来像」の研究	ファイナンス入門、保険論、損害保険論、 商学演習、研究演習	０４	０９
岡村浩一郎	イノベーション・ネットワーク	情報ネットワーク論、 ビジネス情報特論、研究演習	０５	１０
岡村　秀夫	証券市場・企業金融・コーポレートガバナンスの研究	ファイナンス入門、ファイナンス論、 商学演習、研究演習	０４	１１
海道 ﾉﾌﾞﾁｶ	コーポレート・ガバナンスの国際比較	経営学史、商学演習、研究演習	０１	１２
梶浦　昭友	財務諸表の構造と分析 －企業の実態を読む－	財務諸表分析、商学演習、研究演習	０２	１３
川端　基夫	リージョナル・マーケティングの研究	マーケティング入門、流通システム論、 商学演習、研究演習	０３	１４
木山　　実	商品史と商社史の研究	経営史、商学演習、研究演習	０１	１５
小菅　正伸	グローバル企業の戦略経営と会計	会計学総論、商学演習、研究演習	０２	１６
阪　　智香	環境会計および財務会計の研究	環境会計論、商学演習、研究演習	０２	１７
榊原　茂樹	経営財務および証券投資	経営財務論、商学演習、研究演習	０１	１８
地道　正行	ビジネスモデリングのための統計科学入門	統計学基礎、ビジネスモデル分析、 研究演習	０５	１９
杉原左右一	ビジネス情報分析の基礎と応用	研究演習	０５	２０
須永　　努	消費者行動視点のマーケティング戦略研究	マーケティング入門、外国書講読（英）、 消費者行動論、商学演習、研究演習	０３	２１

担　当　者	研　究　テ　ー　マ	２０１１年度担当授業科目	コース	ページ
瀬見　　博	経営意思決定論の研究	マネジメント・サイエンス、 研究演習	０１	２２
寺地　孝之	金融システムの国際比較と国際関係	ファイナンス入門、国際金融論、 ファイナンス特論、コース共通特論、 商学演習、研究演習	０４	２３
則定　隆男	国際ビジネス（国際経営と国際取引）における 文化とコミュニケーションの研究	国際ビジネス入門、 国際ビジネスコミュニケーション論、 商学演習、研究演習	０６	２４
林　　隆敏	財務会計論および監査論 －財務情報の開示と監査－	監査論、研究演習	０２	２５
平松　一夫	ＩＦＲＳ（国際会計基準）：動向、内容、課題	研究演習	０２	２６
広瀬　憲三	アジア経済と日本経済のグローバル化	教養基礎（リテラシー）、 ビジネス・エコノミックス、 商学演習、研究演習	０５	２７
福井　幸男	データ分析と情報処理の理論と実践 －多変量解析－	統計学基礎、情報処理論、 情報システム論、研究演習	０５	２８
藤沢　武史	国際マーケティング戦略＆国際経営戦略 ―理論研究とデータ分析とケーススタディの整合化―	国際ビジネス入門、多国籍企業論、 商学演習、研究演習	０６	２９
松本　雄一	人的資源管理・経営組織における人材育成・技能伝承	経営労務論、商学演習、研究演習	０１	３０
水野　敬三	ゲーム理論の学習と経営・経済問題へのその応用	数学基礎Ｂ（線形代数）、 市場システム論、ビジネス情報特論、 研究演習	０５	３１
深山　　明	経営学の基本問題	経営生産論、商学演習、研究演習	０１	３２
山口　隆之	中小企業経営研究	経営学基礎、研究演習	０１	３３
渡辺　敏雄	事業企画・従業員満足・顧客創造	経営学基礎、研究演習	０１	３４

コ　ー　ス　番　号　一　覧	
０１：経営コース	０２：会計コース
０３：マーケティングコース	０４：ファイナンスコース
０５：ビジネス情報コース	０６：国際ビジネスコース

担　当　者	石淵　順也
研究テーマ	マーケティング・リサーチに基づく新製品開発と戦略策定
使用テキスト	小川孔輔(2009)『マーケティング入門』日本経済新聞社 （テキストは変更になる可能性があります）
説明会・面談等	説明会 ①９月２０日（火）　１２時４０分～１３時２５分　商１１教室 ②９月２１日（水）　１２時４０分～１３時２５分　商１１教室 **ゼミの概要説明と面接の予約を行いますので、上記説明会のどちらかに必ず出席してください。説明会に出席し、面接(9/26～9/28 実施予定)を受けた方の中から決定します。**
概　　要	１、概要と目標 マーケティング＆消費者行動の知識と皆さんの創造力をもとに、新製品・サービスの開発実践、及びその新製品・サービスの戦略立案を研究します。マーケティング・リサーチの理論と技術を用いて、精度の高いマーケティング活動を行える能力の修得を目指します。 ２、内容（変更の可能性あり） 研究演習Ｉでは、産学連携・大学横断の新製品開発提案コンテストに参加します。他大学ゼミとの競合プレゼン(11 月)に向けて、グループ・プロジェクトで、アイデア想起から製品化・販売のための戦略立案までの提案を考え、ゼミで報告・議論を行います（その過程でマーケティング・リサーチを最低１回は行ってもらいます)。そのために、教科書を用いてマーケティングの理論（特に新製品開発、戦略策定に関する理論と技術）の勉強や、戦略策定を仮想的に経験するケース・スタディ等を行います。他に、実務家を招き、講演、議論等を行います。 研究演習Ⅱでは、3 年次と別の新ビジネス提案コンテストあるいは企業との共同プロジェクトにグループ単位で参加することと、個人単位の卒論報告・議論を中心に行います。 ３、要望事項 以下４点の条件をゼミ生に求めます。 (1)ゼミ、グループ・プロジェクトの勉強会（ゼミの時間以外に行う）の無断欠席は厳禁（除名もあり)。また、ゼミ行事（コンパ・合宿等）に積極的に参加できること。 (2)自身でマーケティング関連の問題を決め、それを解決していく課題解決型の授業（グループ、個人単位どちらでもＯＫ）を２年修了時点までに履修済みであることが望ましい。この段階の経験なしで、いきなり新製品開発プロジェクトに参加するのは難しい。 (3)統計学基礎、流通システム論、マーケティング・マネジメント、消費者行動論、マーケティング・リサーチを２年次に履修中か、３年次に履修できることが望ましい。 (4)ゼミの連絡等をメールで行うため、ＰＣメールが使用できること。 ４、選考方法 個別面談と志望理由書（説明会で配布）で決定する予定です。選考プロセスは説明会で説明します。必要事項を記入した志望理由書 3 部（うち 2 部はコピー）を面接時に持参すること。 ５、その他 ゼミ生決定後、ゼミの運営、内容についてミーティングを行います。合格発表時に連絡します。また、11 月に上述のコンテストのプレゼン大会を見学に行きますので、必ず参加してください。

担　当　者	伊藤秀和（いとう・ひでかず）
研究テーマ	Project-based Research Seminar 2012
使用テキスト	適宜指示。
説明会・面談等	選考方法については、8 月 24 日（水）以降、研究室ドアに掲示する。 なお、担当教員との面談は、以下の日程を予定している。 本演習に関する質問・相談等は、担当教員の個人研究室への直接訪問に加え、次の E-mail アドレスでも受け付ける（hito2012research@gmail.com、関学ユーザー名@kwansei.ac.jp からの送信のみ対応、携帯アドレス等不可）。 (1) 9 月 23 日（金）10:00-17:00　（場所：第 2 教授研究館・204 号室） (2) 10 月 7 日（金）10:00-17:00　（場所：第 2 教授研究館・204 号室）
概　　要	現代のビジネスパーソンには、コミュニケーション能力・語学力・論理的思考力など、さまざまな能力が要求されます。その中でも「課題を見つけ、仮説を設定し、それを実証し、解決法を考える」という**自ら気づき・発見し、行動する能力**が極めて重要だと考えます。 しかし、皆さんがこれまで受けた教育（受験勉強？）は、あらかじめ答えのある問題を解く（あるいは覚える）という訓練ばかりではないでしょうか。現実の社会には、決まった答えがある課題の方が少ないくらいです。 本演習では、履修者の皆さんと一緒に、我々の身の回り（あるいは、新聞やニュースで話題）の課題を取り上げ、具体的にどのように解決していくのか**実践的に考え・行動し、その現象・解決策を明らか**にします。 例えば、以下のような課題が本演習のテーマとして考えられます。 1. Amazon や楽天など、ネットショッピングが活況である。リアルショッピング（百貨店閉店・シャッター商店街）の生き残り戦略は？？？ 2. 過疎化・高齢化（や都心集中）の影響で、買い物難民と呼ばれる、買い物が困難な高齢者が社会問題となっている。解決策はあるのか？？？ 3. 不況下で低価格戦略が主流であるが、消費者は価格と品質だけでなく、お店の立地（どのコンビニに行く？）にどれほど影響されるのか？？？ プロジェクト研究に興味のある（かつ、**研究演習に本気で挑む、アカデミックを楽しみたい！**）学生さんは、私の研究室を訪ねてください。
留意事項	就職活動の早期化・長期化のため、3 年次・4 年次と 2 年間行われる研究演習も、実質的には 3 年次秋学期の途中から 4 年次春学期（あるいは夏休み）まで、就職活動で多くの時間を奪われます。そのため、2011 年度秋学期から定期的なミーティングの機会を設けます（参加必須）。 皆さんの学生生活において、研究演習（*or* 授業）は、部活動・サークル活動・アルバイト・趣味・恋愛など、数多くある重要な要素のごく一部ですが、**本気で挑む研究演習**との両立はとても大変です。時間的・物理的な制約も覚悟で履修して下さい（全てにおいて演習活動が優先されます）。

担　当　者	**井　上　達　男**
研究テーマ	**財務会計および国際会計の研究**
使用テキスト	最新の国際会計基準に関するテキストを、授業中に指示します。
説明会・面談等	ゼミ希望者はメール（tatsuo@kwansei.ac.jp）で**面談希望時間を予約し**、10 分程度の面談（場所：研究室）を受けてください。**詳細はゼミＨＰ**（http://www.kcc.zaq.ne.jp/tatsuo/）に掲示します。 なお、**第 1 週目の面談可能時間**の予定は次のとおりです。 9 月 20 日(火)・22 日(木)のチャペル・アワーと昼休み 9 月 23 日(金)・26 日(月)の 10:30～17:00 ※定員に達するまで面談時間を掲示し、面談します。
概　　要	当ゼミは、会計の必須知識である**財務会計、国際会計基準（IFRS/IAS）、財務諸表分析**の基礎を学ぶことを目的としています。 「**研究演習Ⅰ**」では、財務諸表の作成および分析に関する知識と理解を深めます。まず 3 年生の 4 月～10 月は、**日本の会計基準と国際会計基準**を比較しながら勉強し、日本の会計基準と国際会計基準に対する理解を深めます。その後、**財務諸表分析のケーススタディ**を行うことによって、実際に財務諸表を分析し、読めるようになります。授業では、テキストや業種毎の財務諸表分析を**グループ発表**し、討論することによって、会計に関する知識を得るとともに、ゼミ生相互に刺激しあいながら勉強することを目的としています。また、これらの活動を通じて、各自が卒業論文のテーマを見つける手助けをします。 「**研究演習Ⅱ**」では、各自が設定した研究テーマについて報告と討論を行い、研究を深めるとともに、**卒業論文作成の指導**にあたります。なお、4 年生春学期は、時事問題や、会計と企業価値評価についても講述し、**会計数値をどのように経営に生かす**かについても考えます。 **当ゼミは、ゼミ生によって運営される自由なゼミです。**ゼミ生の企画によって合宿やコンパ等を行いますので、ゼミの諸活動に積極的に参加する意思のある学生諸君の参加を希望します。

担　当　者	岡　田　太　志

研究テーマ

「わが国保険システムの将来像」の研究

使用テキスト

水島一也(2006)『現代保険経済〔第８版〕』千倉書房
他のテキスト、ペーパー等については進捗に応じて指示します。
（研究演習Ⅰ・Ⅱを通じて７冊を予定しています。）

説明会・面談等

以下の通り、説明会を実施します。希望者はいずれかの説明会に参加して下さい。その後、個人面談を適宜実施します。詳細は個人研究室に掲示します。

９月２０日（火）昼休み　商－１５、　９月２２日（木）昼休み　商－５
９月２７日（火）昼休み　商－４

概　　要

皆さんにとって、「考える」ということはどういうことでしょうか。例えば、「考える」ということと「勉強する」ということは同義でしょうか。担当者の専門領域は保険論であり、当然に保険に係わる諸現象が研究の対象となるわけですが、保険の専門的話題に入る前に、「『考える』とは何か」ということを改めて「考える」ことから、それも抽象的にではなく具体的に「考える」ことから、研究演習Ⅰを始める予定です。この意味において、保険経済に係わる諸現象は、皆さんにとって将来ますます求められるであろう「考える力」を、そして「表現する力」を養成するためのひとつの対象と考えています。

ひとつの対象と言いましても、保険経済諸現象は、極めて複雑な様相を呈し始めており、こうした傾向は今後暫くさらに強まることはあっても弱まることはないと予想され、この意味から、学際的研究が強く求められている研究分野です。

わが国では、９０年代の後半以降、金融の自由化・規制改革が進展する一方で、生保で７社、損保で２社の経営破綻が続き、近年では保険金の未払い不払いが大量に発生し、こうした事態への対応が社会問題化しました。なぜこうした事態が起きたのでしょう。保険の制度そのものの勉強とともに、自由化・規制改革の基本的発想を知るためにはミクロの勉強が必要でしょう。生保では、一社で数十兆円の資産を有している会社がいくつもあります。保険金融の理解のためにはマクロや財務の勉強も必要です。保険に入るという行為は保険契約の締結であり、それは附合契約と呼ばれるものです。予定利率の引き下げ問題が財産権との係わりにおいても注目を集めましたが、そもそも契約とは何か。これについては商法や保険業法のみならず民法の勉強が必要でしょう。生保業に多くみられる企業形態である相互会社では、契約者は一人一票の議決権や残余請求権を有した社員です。企業ガバナンスの観点から当然に経営学他の勉強が必要です。チャネルや商品の自由化についてはマーケティングの知見も必要です。保険会計そして監督当局の問題、等々を含めた「全体としての保険システム」の理解のためには、他にも数多くの学際的勉強が必要です。

研究演習Ⅰにおいては、上記の内容に関する基礎的なテキストやペーパー、資料を用いた報告と分析や討論を通じて、保険の市場と組織、ファイナンスの基礎理論、保険の基礎理論の理解に努めます。また、秋学期には、20 大学による(1)全国学生保険学ゼミナール(RIS)、他大学との(2)合同ゼミ、(3)ディベート大会、に臨む予定です。研究演習Ⅱにおいては、各自の研究テーマについての研究指導を行います。

人生の主役がなによりも皆さん自身であるように、ゼミ活動の主役も皆さん自身です。この意味からも、巡り会った仲間をそして自分自身を大切にすべく、ゼミ活動への真摯で積極的な貢献を求めます。面談の際に重視しますが、閉塞と激変の時代だからこそ、熱意と積極性と責任感にあふれ、洞察力に優れた「意識の高い」、「ストレス耐性の高い」学生諸君の参加を切望しています。

担 当 者	岡 村　浩 一 郎
研究テーマ	**イノベーション・ネットワーク**

本ゼミで習得してもらいたいこと

本ゼミは実証研究を指向する。本ゼミでの活動を通じ、ゼミ生には「1) 事例や文献をもとに仮説を立て;2) 仮説の検定に必要なエビデンス (情報・データ)を収集し;3) 仮説を検定する; そして、4) 検定結果について考察する」一連のスキルを習得してもらうことを期待する。このようなスキルは業種・職種を問わず実社会において求められるスキルである。

対象となる研究

本ゼミの研究の軸は「イノベーション」と「社会ネットワーク」である。経済活動のネットワーク化・グローバル化が深化しつつある今日、経済学や経営学において、組織や個人は、他者との様々な社会的、経済的関係 (つながり)に裏付けされたネットワークの一員として理解されるようになりつつある。また、技術革新に代表されるイノベーションは、組織や経済社会の成長の源として重要である。企業はイノベーションに向け、様々な組織との連携を重ねるが、その結果、組織間ネットワークが形成され、発展していく。これが「イノベーション・ネットワーク」の一例である。

本ゼミでは例えば「組織、個人間のネットワークはどうなっているのか。その特性は何か。組織、個人の行動やパフォーマンスにどのような影響を及ぼしているのか」といった研究課題を取り上げる。例えば現在、ゼミ 4 年生は卒論に向け「大学サークル・メンバー間のネットワーク (つながり) が学業や就職等の学生のパフォーマンスに与える影響」や「チーム・メンバー間のネットワーク、プロスポーツ・チームの成績に与える影響」の研究を進めている。

ゼミ研究を通して“Aha! (「なるほど！そうか！」)”感覚を体験してもらいたい。

学生への要望

- 「統計学基礎や経済学基礎、数学基礎」や「ビジネス英書、外国書購読や人文演習」を履修済み、もしくは履修中であることが望ましい。
- 個人面談・申込書記入に先立ち、社会ネットワークやイノベーションに関する書籍を読んでほしい。
- ゼミ生には、統計、マーケティング系の指定する授業の履修を求める。

選考方法

個人面談とゼミ申込書類を踏まえゼミ生を選考する。申込書配布や説明会・面談の詳細など、選考に関する連絡はウェブ (http://www.stism.com/)で行う (申込期間中、随時更新)。

説明会・面談等

説明会は 9 月 27, 28, 30 日の 3 回、いずれもチャペル・アワーに商学部 5 号教室で行う。個人面談 (9 月 28 日～)の詳細はウェブに掲載する。

使用テキスト

ゼミの進行に合わせ、配布・指示する。

Good luck!

担　当　者	岡　村　秀　夫
研究テーマ	証券市場・企業金融・コーポレートガバナンスの研究
使用テキスト	『新・証券市場 2011』（日本証券業協会編、中央経済社） 『金融システム論』（岡村秀夫・田中敦・野間敏克・藤原賢哉、有斐閣） その他、適宜必要な文献を指示します。
説明会・面談等	【説明会】9 月 20 日（火）昼休み（商学部本館 2 階・商 14 号教室） 9 月 21 日（水）チャペルアワー（商学部本館 2 階・商 14 号教室） 9 月 26 日（月）昼休み（商学部本館 2 階・商 14 号教室） 【面談】9 月 20 日（火）以降、研究室（第二教授研究館 335 号室）で随時行います。研究室前に日時を掲示し、併せて志望理由書を配布する予定です。 【連絡先】okamura@kwansei.ac.jp

概　　要

＜ねらい＞

①論理的思考力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力の向上
②グループ研究を通じたプロジェクトの企画・運営能力の育成
③ゼミ活動を通じた人間関係の形成

＜研究テーマ＞

ゼミでの研究を通じて、次の 3 点の理解を目指します。

①証券市場をはじめとする様々なマーケットの仕組みや機能、証券会社や銀行の機能、金融システムの役割についての理解
②ファイナンスの考え方の習得を通じた企業金融（コーポレートファイナンス）の理解
③コーポレートガバナンス、ならびに企業のあり方についての理解

＜ゼミ活動の概要＞

研究演習 I では、ディベート大会、証券ゼミナール大会を大きな目標とし、グループ研究を中心に運営します。2011 年度を例にとると、春合宿、同志社大学とのディベート大会（6 月）、夏合宿、立命館大学との合同ゼミ（10 月）、証券ゼミナール大会（12 月に東京で開催）がゼミ活動の大きな柱になっています。また、昨年度はゼミ内定者全員が 2 回生秋学期の KG ワークラボに参加しました。

2011 年度のテーマ例としては、M&A、証券化と金融危機、起業（アントレプレナーシップ）、株式上場の是非、などが挙げられます。

研究演習 II では、各自関心のあるテーマについて研究し、ゼミでの報告・討論を通じて、卒業論文を作成し、全員の成果を論文集に取りまとめる予定です。

＜留意事項＞

①選考にあたっては、真剣に取り組もうとする「やる気」と「研究テーマへの関心の強さ」を重視します（「とりあえずゼミに入っておこう」という考えの人は遠慮してください）。
②時間割に載っているゼミの授業は、ゼミ活動の一部に過ぎないものと考えてください。ゼミの授業をペースメーカーとして、グループ研究の経過報告、その他のゼミ活動の打ち合わせ・発表を進めていきます。スケジュール調整を柔軟に行うことのできる人を希望します。
③ゼミの授業はもちろんのこと、ゼミ活動全般（合宿・旅行、コンパ、サブゼミ、グループ研究の打ち合わせ）に積極的な姿勢で臨むことを期待しています。
④「自由・自主・自律」がモットーです。メリハリをつけ、ゼミ活動とこれまで頑張ってきた活動を両立しているゼミ生も多くいます。個性豊かな人が集い、ゼミ活動を通じて、卒業後も長く付き合える友人を多く作ってもらいたいと考えています。
⑤ミスマッチのないように、説明会、面談でゼミの活動内容を十分理解してください。志望者には積極的に研究室を訪問することを勧めます。

担　当　者	海道ノブチカ
研 究 テ ー マ	コーポレート・ガバナンスの国際比較
使用テキスト	海道ノブチカ・風間信隆編著『コーポレート・ガバナンスと経営学』 ミネルヴァ書房、2009年
説明会・面談等	9月22日（木）　チャペルの時間　商学部5号教室 面談：研究室の前に面談日時を掲示する

概　　要

グローバリゼーションのもとでは、IT、インターネットの発展により情報の瞬間的な伝達が可能となり、各国は国際金融市場の影響を瞬時に受け、各国経済はますますその相互依存性を強めるようになった。そのさいアメリカの年金基金などの機関投資家や投資銀行は、グローバルな資本市場で勢力を強め株主価値重視の市場ルールをグローバルスタンダードとして打ち立てようとした。このアングロサクソン型資本主義とその企業モデルは、徹底した市場原理にもとづいており、統制・規制の廃止により自由競争を促進し、また自己責任の原理を貫徹することにより福祉の見直しをおこない、より効率的な、より競争的な社会や企業運営を求めている。現代の日本においてもこの傾向が強いが、昨年のリーマンショック以降アメリカ型のこのようなコーポレート・ガバナンスの問題点も表面化した。

これに対してドイツをはじめとするヨーロッパ型資本主義とその企業モデルは、市場原理をただ無制限に適用するのではなく、必要な場合には市場原理の作用を分野によってはある程度抑制し、政府が社会的目的のために規制をおこないながら市場原理をうまく活用し、規制のための制度づくりを進める点に特徴がある。すなわち株主利益の極大化だけを唯一の目標とするのではなく比較的平等で、所得水準が高く、安定した資本主義社会をつくることを目指している。そのためには強力な政府が社会の安定と発展のために指導力を発揮することが必要となる。したがってグローバリゼーションのもとでもヨーロッパ型の企業モデルやコーポレート・ガバナンスとアングロサクソン型の企業モデルやコーポレート・ガバナンスとの間には社会的利益を志向するか、あるいは株主の利益を重視するかに関して原則的な違いがある。アングロサクソン型の資本主義における企業モデルとヨーロッパ型資本主義のもとでの企業モデルを比較し、日本の企業経営とも比較し、それぞれの特徴を研究演習において解明する。

担 当 者	梶　浦　　昭　友
研究テーマ	財務諸表の構造と分析　－企業の実態を読む－

使用テキスト：『会社四季報』、有価証券報告書その他、別途指示します。

説明会等：面談日程等の詳細は、以下のゼミWebの**「B30期募集」**の箇所に掲載します。無用な待ち時間等を避けるため、**面談は事前のE-mailによる完全予約制**です。説明会は実施の有無を含めて未定ですが、Webに掲載します。

梶浦ゼミWeb　http://www.kajiura.info/

面談予約および照会E-mail宛先　b30@mail.kajiura.info（ゼミ募集専用）

概　　要

概要の詳細も「梶浦ゼミWeb」に別途掲載します。

１．当ゼミの目標

当ゼミの基本目標は、会計情報、とくに財務諸表の構造を理解し、会計情報を読み解いて企業の実態を知ることです。ゼミでは企業活動の実態を判断するための会計情報の体系・構造および基礎となる会計基準を学んだ上で、会計情報の読み方である財務諸表分析に関する手法や解釈方法について検討し、会計情報を通じた多様な企業分析観を養います。

２．当ゼミの運営方式（ゼミⅠ）

①春学期には、企業の存在そのものを把握するために『会社四季報』を読み、あわせて、公表されている企業情報の代表例である有価証券報告書を通じて、実際例としての会計の用語・体系・構造を把握します。また、企業分析のグループ研究の準備を進めます。

②秋学期には、企業の各種情報を収集し、それらを手がかりに、グループで多様な観点から企業を分析し、対象企業の現状や将来見込みについてのプレゼンテーションを行って、企業の実態やビジネスの言語としての会計に関する理解を深めます。

③夏休み中に研究合宿を行い、企業分析演習に向けての予備研究を行います。

④上述の研究合宿のほか、ゼミ生が決定する諸活動も積極的に実施します。

⑤当ゼミでは、文書作成、数値分析、情報収集、プレゼンテーション、コミュニケーション等についてのコンピューター・リテラシーの蓄積に努めます。現状での知識はWebを見てE-mailで面談予約ができること以外は不要ですが、連絡や教材の配布にもネットを活用しますから、アクセスが必須です。

３．募集条件と評価ルール

①ゼミ応募のためには、原則として「簿記基礎」の単位を取得していること。

②基本的に梶浦ゼミは「何でもやってみる」「何でも参加する」意欲のあるゼミ生諸君による自主運営を尊重するので、その前提として、出席と参加を重視します。

４．応募方法

関心のある学生は、ゼミWebに掲載している説明文書等をよく読んでください。**応募を希望する学生は、Web掲載の日程表を見て、事前にE-mailで時間予約した上で、Webに置いている「梶浦ゼミ志望調査票」をプリントして記入し、予約時間に来訪ください。**

５．面談等の場所

梶浦研究室（第二教授研究館２階235号）。E-mailによる質問等も受け付けます。

担　当　者	川　端　基　夫
研究テーマ	リージョナル・マーケティングの研究
使用テキスト	未定（演習開始後にゼミメンバーの関心に合わせて指示をします）
説明会・面談等	○**説明会**：９月２０日（火）１３：３０～１４：００ ＊出席者にのみ応募用紙（オリジナル）を配布。 ○**第１回募集**：応募用紙提出締め切り日＝９月２６日（月）１２時 提出場所は２０３研究室のドアのＢＯＸ 面接者（書類合格者）発表＝９月２６日（月）１５時 面接＝９月２６日（月）１５時～１９時（２０名程度） ○**第２回募集**：応募用紙提出締め切り日＝１０月４日（月）１０時 提出場所は２０３研究室のドアのＢＯＸ 面接者（書類合格者）発表＝１０月４日（月）１５時 面接＝１０月４日（月）１５時～１９時（２０名程度） ＊１回目と２回目は半数（１０名程度）ずつ採用を予定。 ＊川端の著書・論文などを読んだ人、マーケティング入門・流通システム論の履修者（単位取得者または履修中の者）を優先します。
概　　要	リージョナル・マーケティングとは、流通研究やマーケティング研究における「地域性」「空間性」「場所性」といった問題を扱う領域です。 具体的には、以下のようなテーマに関心がある人を募集します。 ①流通業の立地研究：さまざまな立地戦略 ②流通業の国際化研究：海外進出、海外市場 ③商業集積研究：問屋街、ショッピングセンター、商店街、地下街、新興商業集積（アメ村、堀江、中崎町、栄町など） ④市場研究：消費のローカル性（地域特性）、エリア市場分析 フードデザート問題（買い物難民問題） 消費者の空間分析（店舗内行動、回遊、アクセス行動） ⑤流通研究：商品流通のローカル性（地域性問題など） ⑥地域ブランド研究：地域ブランド商品とその流通・マーケティング ⑦観光研究：地域観光マーケティング ＊できるだけ幅広く勉強をした後に、各自のテーマを絞り込んでもらい卒論につなげます。 ＊演習の授業時間以外の時間も使ってグループワークなどをやってもらいますので、サークルやバイトで忙しい人には向いていません。

担　当　者	木　山　　実
研究テーマ	商品史と商社史の研究
使用テキスト	大森一宏ほか編『総合商社の歴史』関学出版会より 2011 年秋刊行予定。 （３年の春学期については、別途参考文献を指示します）
説明会・面談等	9 月 21 日（水）以後、説明会を兼ねた面談を随時実施します。 木山研究室（第 2 教授研究館 212 号室）の前に面談の予定表を、随時貼り出しますので、そこに名前を記入して、予約をとってから、面談を受けてください。
概　　要	【３年生・春学期】「商品史の研究」 ある商品の出現によって、人々のライフスタイルが大きく変容するような商品を「ランドマーク商品」と呼ぶ。ランドマーク商品としては、自動車、電気洗濯機、テレビ、携帯電話など、いろんなモノが考えられるでしょう。 　３人ほどで１グループを作り、各グループで何かランドマーク商品を選び、それについて、以下の３つの論点でグループ発表をしてもらいます。 ①　その商品を開発した人や企業は、なぜ商品開発するに至ったのか。 ②　その商品が消費者や社会になぜ受け入れられたのか。 ③　その商品がどのように人々のライフスタイルを変えたのか。 なにかテキストを決めて輪読するスタイルではないので、学生自ら図書館や産業研究所で入念に資料収集する必要があります。 【３年生・秋学期】ディベートと「商社史の研究」 ・他大学（同志社など）とのディベート：テーマは商学関連になる予定。 ・ディベートのあとは、上記の『総合商社の歴史』という本を読みます。 日本の総合商社は、世界的にみてユニークな企業体であるといわれてきました。そのような総合商社が、なぜ日本で形成され、今に至っているのか、については、やはり歴史的に長期的な視点で考える必要があるでしょう。総合商社の活動範囲はきわめて広範囲にわたりますが、彼らは一体どんなビジネスを展開してきたのか、また今、どんなビジネスを展開しているのかについて、いろいろ調べてみましょう。 【４年生】卒業論文の作成。テーマは歴史がらみであれば OK です。 あらかじめご注意： １．　ゼミの活動は、クラブ・サークル・バイトより優先させて下さい。 ２．　2012 年 9/10～9/15 の間に２泊３日で合宿をしたいと思いますので、この期間は、空けておいて下さい。（合宿実施日確定は同年 6 月頃） ３．　ゼミ合宿・コンパ・テキスト購入などにいくぶん費用がかかりますので、この点、あらかじめ了解しておいてください。

担　当　者	小　　菅　　正　　伸
テ　ー　マ	グローバル企業の戦略経営と会計
用テキスト	門田安弘編著『管理会計レクチャー[基礎編]』（税務経理協会） その他必要に応じて適宜指示する。
説明会・面談等	面談を 9 月 20 日（火）から研究室（第２教授研究館１階 124 号室）で行う予定である。実施時間等の詳細は研究室のドアに表示するので、面談希望者は各自必ず事前確認しておくこと。なお、ゼミの説明会は 9 月 21 日（水）と 22 日（木）の昼休みに商学部本館 2 階 14 号教室で実施する予定である。

概　　要

この研究演習は、管理会計の基礎理論を修得し、戦略志向の経営管理に役立つ会計情報の作成とその利用について理解を深めることを目的としている。管理会計は、財務会計（外部報告のための会計）とは区別される領域であり、経営管理者が経営上の諸問題を解決する際に役立つ情報を提供することを目的とした会計（経営管理のための内部報告会計）である。

管理会計は、実際に企業を経営し管理する経営者や管理者にとって不可欠の専門知識であるとともに、公認会計士・税理士・経営コンサルタントにとっても職業上必須の知識である。企業活動のグローバル化と高度情報化の進展につれて、管理会計に対する実務的要請は日々に強まっているから、理論だけに偏らず、理論の実務への適用をも視野に入れて研究を進める予定である。

ただ、注意して欲しい点は、「会計」という名がつくと、学生諸君の多くが「簿記」のイメージを思い浮かべる傾向が強いことである。しかし、会計と簿記は同じではないし、会計の中でも管理会計はより多彩で、弾力的な内容をもつ研究領域である。決して「借方＊＊／貸方＊＊」という仕訳の勉強を行うものではないし、会計基準や原価計算の基準の解釈について研究するものでもない。管理会計は、経営の現実を前提として、そこから問題を抽出し、その問題を解決するために必要な情報を会計の立場から追求することにおいて、その最大の意義がある。

そこで、本年度は「戦略経営」「情報」「組織」「企業価値」「グローバル戦略」をキーワードとして、「グローバル企業の戦略経営と会計」というテーマをゼミ生とともに考えたいと思っている。企業戦略・事業戦略・職能別戦略をそれぞれ支援する会計について、企業価値、顧客価値、従業員満足、知的資本等の視点から考えてみたい。特に、わが国を代表するグローバル企業に関して、その組織再編と企業価値創造経営、あるいはキャッシュ・フロー重視の経営を具体的な課題として採り上げ、それらを多角的に検討する予定である。

３年生では、最初に「経営分析」を学習し、それを手掛かりとして会計の基礎知識を学び、次に、経営管理者の意思決定に役立つ会計情報の作成とその利用について、テキストをもとに発表と討議を行う予定である。適宜、業界分析や企業分析を行うとともに、わが国企業の実務を意識した形で、具体的な事例を用いて管理会計の基本的な思考や計算技法を学習する。４年生では、各自のテーマについての、分析、報告、討論等を経て、卒業論文の作成へと指導する。

また、ゼミナールは「研究の場」であると同時に「人との交わりの場」でもあると考えているから、合宿、旅行、コンパ、学祭への模擬店出店等の諸行事を随時積極的に実施する予定である。さらに、ゼミの先輩・後輩の交流、ＯＢ・OG 会を通しての卒業生との交流も大切にして研究演習のクラスを運営するつもりである。なお、2012 年度秋学期後半（11 月末～2 月中旬）は在外研究のため日本を離れるが、ゼミの運営には支障の出ないよう最善を尽くす。

何事にも積極的かつ自主的に取り組む意志のある、明朗活発な学生を歓迎する。

担　当　者	阪　智香
研究テーマ	環境会計および財務会計の研究
使用テキスト	阪　智香著『環境会計論』東京経済情報出版、2001 年 その他の文献については適宜指示します。
説明会・面談等	下記の時間帯（昼休み）に説明会を行いますので、当ゼミに興味のある方は是非参加してください。 説明会　9 月 22 日（木）12 時 45 分～　場所は商学部 1 階の 4 号教室 　　9 月 26 日（月）12 時 45 分～　場所は商学部 1 階の 4 号教室 面談は、志望理由書（研究室前・説明会で配布します）に記入の上、所定の面談時間に来ていただいた方から、研究室(232 号)で順次行います（予約は不要です）。
概　　要	１．目的 会計学の学習を通じて、それが社会で果たす役割の重要性を理解すると共に、会計学の広がりと深さを知り、また、その問題点を鋭く見抜く感性を養ってほしいと考えています。当研究演習では、環境会計や財務会計を通して、これらについて各自が興味を持って学ぶことができるようなきっかけを与えたいと考えています。 ２．内容 ①研究演習Ⅰ 春学期は、企業の環境報告書や環境会計の比較・分析、環境会計手法の研究などを行います。ゼミ生による発表と質疑応答を通じて、環境報告書や環境会計を理解し、実務の最新の動向等を学んでください。並行して、株式学習ゲームも実施し、企業の財務データの見方などを学びます。 夏合宿と秋学期には、環境報告書等から、企業の環境活動の実績を示すデータを収集し、財務データとあわせて企業評価を行う予定です。これらを通じて、ディスクロージャーや企業評価の広がりと深さを知り、また、卒業論文につながる問題意識をもってもらいたいと考えます。ゼミの進行にあたっては、ディスカッションを取り入れ、各自の積極的な発言を重視します。他大学との合同ゼミなども予定しています。 ②研究演習Ⅱ 春学期は、企業の財務分析等を行います。それと並行して、各自が興味をもったテーマについて研究し、卒業論文の準備を進めます。 秋学期は、ゼミ生間での討議を通じてさらに理解を深めながら卒業論文の作成にあたります。卒業後みなさんが社会で直面する問題には絶対の答えはありません。安易に答えを求めるのではなく、問題点を見抜く判断力と、それにじっくりと取り組む熱意と努力が求められます。これらを、卒業論文を書くことを通じて学んで下さい。 ③ゼミ活動 大学での授業の他に、集中的に１つのテーマに取り組む合宿、ゼミ生間の交流を深めるためのコンパ、大学祭での出店、ゼミ旅行などを行う予定です。これらを含むゼミ活動全般に、２年間を通じて、積極的に参加する学生を求めます。当研究演習を通じて、知識の習得だけでなく、ゼミ生間の交流を育んで下さい。そうしたゼミの仲間はかけがえのない財産となることと思います。

担　当　者	榊原茂樹
研究テーマ	経営財務および証券投資
使用テキスト	未定
説明会・面談等	説明会は、９月２７日(火)午後１２時５０分―１３時２０分に、 商学部５号教室にて行います。 面接の日程など募集要項は、説明会において配布します。 私のゼミ志願者は、説明会の日に配布します志願説明書を受け取り記入の上、面談に臨んでください
概　要	① このゼミでは、事業の拡大や新事業への進出のために資本を調達したい企業と、おカネを運用したい投資家のファイナンス問題、すなわち、経営財務（コーポレート・ファイナンス）と証券投資の問題を勉強します。この二つのファイナンス問題は、人間の意思決定の完全合理性を仮定したこれまでの経済学的理論に加えて、人々の意思決定の限られた合理性や非合理的な行動側面を重視した心理学的アプローチに基づく理論が台頭して、幅広い人々の関心を集めています。経済学が苦手でも心理学に興味のある人も、関心が持てるテーマでしょう。 ② 研究演習Ｉの春学期では、基本テキストを輪読して、経営財務や証券投資の基礎知識を習得します。秋学期では、ケース討議を中心に進行する予定です。 研究演習Ⅱでは、各自の選択した研究テーマについて、研究発表と討論を重ねていくことにより、卒業論文を完成させていきます。 ③ ゼミ生としては、知的好奇心が旺盛な人、愚直に粘り強く物事をやり遂げようとする人、これまで何かに打ち込んできた人、また現在打ち込んでいる人を、歓迎します。

担　当　者	地 道 正 行
研究テーマ	ビジネスモデリングのための統計科学入門
使用テキスト	テキストはおって指示する．なお以下の書籍とそのシリーズを参考文献とする: ～シリーズ ビジネスの数理（第 1 巻）～ 筑波大学ビジネス科学研究科編 (2003)『ビジネス数理への誘い』，朝倉書店
説明会・面談	面談に関するアポイントメントや質問については以下のメールアドレスに連絡されたい．jimichi@kwansei.ac.jp なお、説明会は 9/27(火)のお昼休みに商学部 12 号教室にて行う。
概　　要	19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて活躍した英国の数理科学者カール・ピアソン（Karl Pearson）は、自著『科学の文法』の中で「科学的に接近できない現象があるというのは迷妄である」と述べた。彼の主張は、科学的な視点をもつことが一見科学と接点がないと思われる分野においても肝要であることを示している。このことを勘案すると、ビジネスに関係する分野に科学的視点を導入することの重要性が自然に認識できるであろう。 このゼミナールでは，上で述べた重要性を視野に入れ、様々なビジネスの分野における現象を観測することによって得られたデータから、その現象をモデリング（モデル化）することを考え、逆にそのモデルとデータの当てはまり等を統計科学的に検証する方法を学ぶ。たとえば、「売上高と利益の間にどのような関係があるのか?」といった一見シンプルな疑問について考察することも立派なテーマとなりうる。 ここで、現象をモデル化するためには、ある程度大きな規模のデータを扱わなければならず、この必要性からコンピュータの利用は必須である。具体的には、Excel 等の基本的なソフトウェアの利用はもとより、プラスαのソフトウェア（Maple，R）を利用することによって、一歩進んだコンピュータとソフトウェアの利用法を修得し、ビジネスに関する現象をモデル化する際の「武器」とする。 米国商務省の経営品質に関する褒賞制度であるマルコム・ボルドリッジ賞の Web ページには，『ビジネスとは、挑戦と変革』（“Business as usual” really means challenge and change.）とされている。また、ピアソンによって『科学の文法』が著された当時、英国に留学中だった夏目漱石は、この書籍を読み「文芸を科学する」ことを決意し，文芸の世界に科学の視点を導入することに「挑戦」した。このゼミナールでは「ビジネスを科学的に考察する」ということに挑戦する意思をもつ学生を強く望んでいる。

担　当　者	杉原　左右一
研究テーマ	ビジネス情報分析の基礎と応用
使用テキスト	文献等についてはゼミ進行に応じて随時指示します。
説明会・面談等	説明会、面談の日時を随時研究室（第２教授研究館 338 号）のドアに掲示しますので注意して来室してください。
概　要	商学関連分野の研究を進めるにあたって、ビジネス情報分析に関する知識が極めて重要であり、必要不可欠なものとなっていることは周知の通りです。この様な現状にあって、本ゼミナールでは商学に関係する幅広い分野のビジネス情報分析について、基礎から平易に学習すると同時に、現実問題の理論的・実証的分析を行うことを意図しています。 （１）　ビジネス情報分野や、経営学、会計学、マーケティング、ファイナンス、国際ビジネス等の商学に関する幅広い分野から、ビジネス情報分析に関する各自の関心あるテーマを選択し、グループを構成して討論を重ねながら理論的・実証的な分析を行います。特に、来年度は、広く統計科学に関する歴史的側面についても分担して学習します。 （２）　様々な情報活用法や実証的分析法についてもコンピュータをフルに利用して基礎から学習します。初歩から指導するので予備知識は不要です。 （３）　ゼミナールでは各自の独自性が十分に生かされるように指導していきたいと思います。意欲ある諸君の積極的な参加を期待しています。また、ゼミの集まり、合宿等も随時計画しますので積極的に参加して下さい。

担　当　者	須　永　　努
研 究 テ ー マ	消費者行動視点のマーケティング戦略研究
使用テキスト	和田充夫、恩蔵直人、三浦俊彦（2006）『マーケティング戦略』有斐閣アルマ 田中洋（2008）『消費者行動論体系』中央経済社
説明会・面談等	説明会：9 月 21 日（水）12：40～13：30　商－5（商学部本館 1 階） ※志望理由書を配布します 志望理由書提出締切：9 月 26 日（月）18：00（第 2 教授研究館 314 号室） 面談：9 月 27 日（火）～9 月 30 日（金）　10：00～19：00 （第 2 教授研究館 314 号室）
概　　要	本演習では、消費者行動の理解を通じて効果的、効率的なマーケティング戦略の在り方について研究します。現実社会の中から自分たちで問題を発見し、消費者行動およびマーケティングの観点からその解決策を探り、最終的にはマーケティング戦略に対する示唆の提示を目ざします。そこでは、身近なマーケティング現象の背景に潜んでいる真理やメカニズムを解明する営みが求められます。 （目的） ・物事の本質を捉える知、および本質を捉えるための視点を身につける。 ・問題発見／問題設定能力、問題解決のための分析力および論理的思考力、他者に伝えるためのプレゼンテーション力を身につける。 （内容） 3 年次は、基本的にグループ・ワークを行います。グループ内で議論した内容を発表し、ディスカッションをするといった活動です。その過程で 4 年次に行う個人研究に必要な基盤を築いてほしいと思います。 テーマは店頭マーケティング、広告戦略、スポーツ・マーケティングなどさまざまな水準や視点があり得ますが、グループごとに話し合い、自分たちで取り組みたい研究テーマを設定してもらいます。ゼミの時間は基本的に、ゼミ生主体で進められていきますが、研究テーマに関連する理論や考え方については随時、説明していきます。 また、年 1 回、1 泊 2 日で合宿も行う予定です。消費者行動やマーケティングに興味を持ち、すべてのゼミ活動に対して主体的に取り組むことのできる学生を募集します。 （選考の流れ） 希望者は 9 月 21 日（水）の説明会で配布する志望理由書に必要事項を記入、写真添付の上、9 月 26 日（月）18：00 までに第 2 教授研究館 314 号室へ提出して下さい。面談日時をメールで連絡します。志望理由書を提出したにもかかわらず、9 月 27 日を過ぎても面談日時のメールが来ない学生は必ず、9 月 28 日中に sunaga@kwansei.ac.jp へその旨連絡して下さい。

担　当　者	瀬見　博
研究テーマ	経営意思決定論の研究
使用テキスト	1. 宮川公男『新版意思決定論―基礎とアプローチ―』中央経済社、2010。 2. その他
説明会・面談等	説明会：9 月 21 日(水) 10 時 40 分～11 時 00 分　商学部本館 5 号教室 面談の日程は、9 月 20 日(火)以降、個人研究室(第 2 教授研究館 339 号)前に掲示する。

概　　要

人間や組織は何らかの目的を達成するために意識的に行動するが、それに先立って、数ある行動の中から特定の行動を選択するという決定を下している。この行動の選択ないし選択過程を意思決定とよぶ。すなわち、何らかの問題に直面した場合に、それを解決するための実行可能な行動代替案を列挙して、その中から 1 つを意識的に選択することが意思決定であり、行動の背後にある作用、またはその前提であるということができる。

かかる選択行動ないし意思決定を体系的に取り扱う意思決定論には、「合理的な人間や組織であればどのように決定を行うべきか」という観点から、意思決定問題を論理的・演繹的に明らかにしようとする結果志向的な立場と、「人間や組織が実際にどのようにして決定をしているのか」という視点から、意思決定問題を記述的・帰納的に解明しようとする過程志向的な立場がある。前者を規範的・実践的意思決定論、後者を記述的・行動科学的意思決定論とよんでいる。

「研究演習Ⅰ」では、経営学全般について理解を深めた上で、主として上記 2 つの意思決定論を取り上げ、その基礎から最近の研究成果までを幅広く学習する。

「研究演習Ⅱ」では、経営意思決定問題の中から各自興味あるテーマを選択し、卒業論文の作成にあたる。

学生生活の中でゼミナールを重視し、本気で勉学しようという強い意志と意欲を持った諸子の参加を希望する。

担　当　者	寺　地　孝　之
研 究 テ ー マ	金融システムの国際比較と国際関係

使 用 テキスト

西村信勝『外資系投資銀行の現場ー先端金融入門ー＜改訂版＞』（日経 BP 社）

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム＜第３版＞』（有斐閣）

説明会・面談等

寺地ゼミへの所属は、以下のプロセスで決定します。

説明会への参加（任意）→志望調査書の記入（説明会または研究室で配布）→志望調査書の提出と個人面談の予約→個人面談（１回目）→個人面談（２回目・最終意思確認）→所属決定の通知（電話）→所属許可書の発行

【説明会】ゼミの内容について説明し、志望調査書を配布します。

9月２０日（火）　12：45～13：25　　商１２号

9月２１日（水）　12：45～13：25　　商１５号

※説明会に参加できない場合は、直接、寺地研究室を訪問して下さい。

※日程は変更される場合もあります。選考の詳細はすべて9月２０日（火）以降、寺地研究室のドアに掲示します。

概　　要

【寺地ゼミで何を学ぶか】

銀行や証券会社（投資銀行）などの金融ビジネスの現場を常に意識しつつ、ファイナンス（＝資金の調達・管理・運用）とそれを取り巻く金融システム（法律・制度・政策）の役割を国際比較と国際関係の視点から多面的に明らかにすることがゼミのテーマです。要するにお金をめぐるビジネスと経済の研究ですから、日々の生活に密着した身近なテーマです。

しかし、ファイナンスや金融システムはあくまでも研究対象であって、ゼミ本来の目的は、そうした対象を通じてプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を養成し、社会に通用する**「プロの学生」**を目指すことにあると考えます。

【寺地ゼミでの２年間】

３年生の間に、他学部（文・経済・総政）、他大学（同志社大学、慶応大学、日本大学等）とディベート中心の「合同ゼミ」を実施します。そのため、相手によっては研究テーマもファイナンスから離れて、経済、社会、政治、国際問題などの領域から設定される場合があります。また、全国水準での学生としての能力を確認するために、毎年多数の大学が集まって開催される「証券ゼミナール大会」にも参加します。その他、金融機関本店、取引所等での見学・実習を実施します。

３年生のゼミは１年間続きますが、実際に集中して勉強できるのは、４月から７月までの準備期間（役職決定、対外交渉、チーム編成等）を経て、８月から１２月までのわずか５ヶ月間だけです。その後はすぐに就職活動が始まってしまいます。しかし、ここでの経験こそが、大学４年間の中で限られた貴重なスキルアップの場となり、やがて就職活動を経て、将来の何十年にも及ぶ自分のキャリアにとって大きな力となってくれます。

４年生になると、「金融システム論」、「国際金融論」、「金融史」（または広く「経営史」・「商業史」）の領域から各自が関心のある研究テーマを選び、卒業論文の作成を行うとともに、３年生の研究をサポートします。

なお、ファイナンシャルプランナー、証券アナリスト等の資格取得や海外留学、大学院進学については、適宜指導します。また、就職活動にあたっては、寺地ゼミＯＢＯＧ会（４３８名）が全面的にバックアップします。

【コース制に対する寺地ゼミの考え方】

３年生の４月にゼミが始まり、１２月には就職活動が始まるのですから、コースによって就職先が限定されてしまうことなどありえません。むしろ寺地ゼミでは、どのような実務、どのような企業にも対応できるゼネラリストとしての能力の養成を重視する立場から、私の担当科目である「国際金融論」、「金融史」、「ファイナンス特論」を含むファイナンスコースの最低必要単位 20 単位を履修する他は、できるだけ異なるコースの専門科目を履修することを推奨しています。経営や会計、マーケティング等の理解に乏しいファイナンスのプロなど存在しませんし、その逆もありえません。コースに囚われすぎてゼミの選択肢を狭めると、結局自分の将来をも束縛してしまうと考えます。

【選考にあたっての寺地ゼミの方針】

成績は多分、悪いよりは良いにこしたことはありません。しかし、さしあたって研究演習Ｉの先修条件を満たしているか満たす予定であれば、それで十分です。ＧＰＡ＊＊ポイント以上といった基準もありません。「ファイナンス入門」を含めて、ファイナンスコースの科目を事前に履修している必要もありません。ゼミで一から指導します。何よりも、授業であれコンパであれ（コンパはとくに大切にしています）、コミュニティにとけ込み、かつ存在感を発揮できるキャラクターが望ましいでしょう。そのため、個人面談での「会話」とそれに基づく「直感」をもっとも重要な選考基準としています。

医学部の学生が医師になることを目標としているように、あるいはロースクールの学生が弁護士になることを目標としているように、商学部の学生が優れたビジネスパーソンになることを目標とするのは当然のことです。今一度、関西学院大学入学時の「志」を思い起こし、１０年後、２０年後の自分の仕事や生活を視野に入れて、「意識の高い」学生諸君が寺地ゼミを目指してくれることを強く願っています。そして、グローバルスタンダードで通用する、最高水準のゼミを構築するという理念を共有できる学生諸君２０名で「寺地ゼミ２２期生」を構成したいと思います。

担　当　者	則　定　隆　男

研究テーマ

国際ビジネス（国際経営と国際取引）における文化とコミュニケーションの研究

使用テキスト

Mead, R. (2009). *International Management*. (4th ed) Blackwell.
参考文献として、則定隆男『ビジネスの「コトバ学」』（日本経済新聞出版社）を使用

説明会・面談等

受講希望者は説明会（９月 20 日（火）12 時 50 分、第５教室）に出席もしくは私のホームページ(http://www12.ocn.ne.jp/~norisada/)上での説明を読んだ上で、申込書（説明会で配布しますが、ホームページからもダウンロードできます）に必要事項を記入して面談に訪れて下さい。面談時間はホームページと研究室に掲示します。なお、待ってもらうことのないように、e-mail での予約を勧めます。

概　要:

春学期は、国際取引交渉すなわち「言語・法制度・文化などを異にする当事者間において、互いのビジネス上の利害の対立を調整し、協力して契約締結という共通の目標を達成する過程」を**法務・商務・言語・文化**の観点から分析する。

これを行うため、まず、前半は、交渉ゲームを通して**交渉の戦略**を紹介し、さらに契約に必要な**商務・法務の基礎的知識**を与える。これを踏まえて、後半は、グループ間で**模擬交渉**を行う。グループ毎に、一つの企業を構成し、まず、自社の希望条件を設定、それを元にして相手方グループと交渉して最終的に条件を詰める。この作業を通し、各自がどういった交渉戦略、契約条件が望ましいか、それにはいかなる**コミュニケーション**が要求されるかを切実に考えることができると思われる。

秋学期から４年生にかけては、取引交渉にとどまらず国際経営も含め、広く国際ビジネスにおける**異文化間コミュニケーションの理論的研究**を英文テキストを通して行う。また、身近なビジネスにおけるコトバの分析を行ない、なぜという疑問を持ち考える習慣を身につけさせたい。

なお、こういった授業中の作業とは別に、本ゼミの学生は、**e-mail の交換**により他大学の学生と意見交換を行う作業が課される。そして、**合同の発表会の場**が持たれる。

以上の作業を通して、各自が**卒論のテーマを自ら見つけていく**ことを期待している。なお、授業中の模擬交渉は日本語で行われるが、取り交わすレターや覚え書きは英語で作成し、また、e-mail の交換も英語によって行うので、英語力のある者、あるいは、英語力を付けたいと思う学生の受講を望む。

ゼミは大学生活の中心である。毎週の授業に欠かさず出席することはもちろん、上に紹介した授業外の作業にも積極的に参加し、更には、コンパ、合宿、そして他大学との合同発表会の席を通して多くの友人を作ってもらいたいと考えている。

担　当　者	林　隆 敏
研 究 テ ー マ	財務会計論および監査論　－財務情報の開示と監査－

使用テキスト
〇財務会計の標準的なテキストを利用する予定ですが、書名等は授業開始までに連絡します。
〇授業内容に応じてプリントを配布します。

説明会・面談等

〇所属決定のプロセスは次の通りです。
　説明会（任意）→志望調査書の記入（説明会または林研究室で配布）→個人面談の予約→個人面談（志望調査書持参）→所属決定の通知→所属許可書の交付
〇個人面談はＥメール（takatosi@kwansei.ac.jp）による完全予約制です。面談日程は 9 月 20 日（火）に林研究室（第二教授研究館 209 号室）のドアに掲示します。この日程にしたがって面談の予約をしてください。面談開始日は 9 月 21 日（水）です。
〇9 月 21 日（水）と 22 日（木）の 12:50～13:20 に商学部本館 12 号教室（2 階）で説明会を行います。
〇説明会は任意です。説明会に参加していなくても個人面談は受け付けます。

概　　要
１．目的
　近年、会計・監査に関するニュースが従来にも増してマス・メディアを賑わしています。この背景にはさまざま要因がありますが、わが国でも経済社会における会計・監査の重要性が認識されるようになってきました。企業経営の透明性を確保し、市場経済を適切に運営するために、財務情報の開示と監査は重要な役割を担っています。
　ゼミでは、企業会計・監査制度の枠組みとそこで採用されている具体的なルール（会計基準・監査基準）を、現実の社会での出来事（事例）と結びつけて学習することにより、情報開示と監査の重要性を理解し、会計学・監査論における物事の捉え方、考え方を習得することを目的とします。
　なお、公認会計士試験・税理士試験などの資格取得や大学院進学については、個別に相談・対応します。

２．研究演習Ⅰ
　春学期の前半は、テキストに基づいて財務会計の基本的な内容を学習します。春学期の後半以降は、個別テーマについてグループ報告と討論の形式で授業を進めます。2011 年度は、資産・負債アプローチ、公正価値評価、包括利益、アーニングス・マネジメント、ブランド価値評価、不正発見と監査などを研究しました。また、特に秋学期の後半は、他大学ゼミ（慶應、上智、一橋、立教、関大など）とのディベート大会の準備を行います。

３．研究演習Ⅱ
　各自が設定した特定の研究テーマについて報告と討論を行い、研究を深めるとともに、卒業論文執筆に向けて指導します。

４．ゼミ活動
　週１回の授業のほかに、ゼミコンパ、ゼミ合宿（3 年）、ゼミ旅行（4 年）、新月祭への出店（3 年）、他大学のゼミとの交流行事（3 年・4 年）などを実施しています。

　林ゼミはゼミ生の自主性を重んじています。ゼミ活動全般への積極的な参加を希望します。勉学とゼミ活動に対する熱意ある学生諸君の応募を期待します。

担　当　者	**平　松　一　夫**
研究テーマ	ＩＦＲＳ（国際会計基準）：動向、内容、課題
使用テキスト	平松一夫監修『ＩＦＲＳ（国際会計基準）の基礎』中央経済社、2011 年　他
説明会・面談等	・ 教師との面談や現役ゼミ生と話す機会を設けます。希望者はまず khira@kwansei.ac.jp へメールで連絡してください。 メールでの通信の他、研究室（池内記念館３階・３３３号室）のドアにも必要事項を掲示します。
概　　要	**１．ゼミの特徴　→　他大学との合同ゼミ、合宿コンパなど** 平松ゼミでは日ごろの研究成果を確かめるため、他大学との合同ゼミを企画しています。名古屋大学（定期）、京都大学（不定期）との合同ゼミを行っています。異なる背景をもつ大学との交流を通じて、自らの位置を確認することは大切なことです。 また、合宿・コンパ等により、学年の枠を超えた懇親を深めます。 **２．期待されるゼミ生** 平松ゼミのゼミ・モットーは "Challenge and Contribution" です。勉学はいうに及ばず、何事に対しても積極的に取り組み、ゼミの諸活動でなんらかの貢献をする意欲のある、明朗で情熱的な学生諸君の参加を希望します。 **３．勉学の目標** いま会計の世界は、ＩＦＲＳ（国際会計基準）をめぐって大変革の時期を迎えています。ＩＦＲＳが世界とわが国に及ぼす影響を研究することにより、会計・経営の今後が見えてきます。ゼミではこの問題についての理解を深めます。 **４．ゼミⅠ（３年生）** ゼミⅠ（３年生）では、教材に添って分担して報告し、最近の動向を把握することに努めます。平松ゼミ出身の公認会計士が約７０名、税理士が約５０名以上いますので、必要に応じて適切な会計士・税理士を招いて話を聞くなど、現実の世界にもふれることとします。 **５．ゼミⅡ（４年生）** ゼミⅡ（４年生）では、卒業論文のテーマについて研究・報告を行い、その執筆に向けて指導します。卒業論文は『会計学研究　第 35 号』として印刷・出版します。先輩の論文集を受け取り、後輩に自分の論文集を手渡す。この継承が平松ゼミの伝統です。

担　当　者	広 瀬　憲 三
研 究 テ ー マ	アジア経済と日本経済のグローバル化
使用テキスト	未定
説明会・面談等	ゼミを希望する人は必ず説明会に参加してください。面談の方法等についてもそのとき説明します。(説明会の日時は事務室掲示板に掲示しますので見てください。)
概　　要	1997 年のアジア通貨危機によりアジア経済はかつてのような勢いで成長してはいませんが、世界全体の中で見るとまれにみる成長センターといえます。また、2001 年 12 月に中国、2002 年 1 月に台湾がＷＴＯに加盟し、貿易、投資が活発化してきています。また、中国は昨年、日本のＧＤＰを抜き世界第２位の経済規模になりましたし、ＡＳＥＡＮとＦＴＡを結ぶなど積極的に活動しています。日本もシンガポールとＦＴＡ、ＥＰＡを結んだあと、積極的にアジアを中心に自由貿易協定を結んでいます。一方、日本国内を見ると、景気は停滞した状態が続いていますが、世界の中で見ると、ＧＤＰ規模で世界第 3 位の位置を占めており、また日本企業の持つ技術は世界的にもきわめて高く、世界経済全体に与える影響も大きなものといえます。アジアに対しても日本は貿易、直接投資などを通じてアジアの発展に大きな影響を与えています。中国に対して注目する人は多くいますが、他のアジア諸国も急速に経済発展しており、日本企業にとっても重要性を増しています。ゼミでは、中国以外のアジア諸国について日本との係わり合いを中心に考察して行きます。具体的には、 ①アジア経済と日本との係わり合いについての知識を得ること ②アジアのいくつかの国(たとえば、台湾、マレーシア)について企業進出、貿易関係など日本との経済的関係について、もしくは日本企業のアジア進出とその影響について、グループで研究する。 ③Power Point などを用いてプレゼンテイション能力を高めること という３つの点に力点を置いてゼミを進めていく予定です。 これらを通じてものの見方、考え方について論理的思考能力、問題解決能力を身につけると同時に現実の経済状況を把握することを目指します。 ゼミでの議論等に参加するためには積極性とやる気が必要です。これらがなければ議論が表面的なものになってしまう恐れがあるからです。 ゼミが活発になるようやる気のある、何にでも積極的に取り組もうとする学生、進んで議論をする学生を希望します。私自身、ゼミは研究の場と同じくらい交友の場としても学生生活にとって重要であると考えています。ゼミ合宿、ゼミ旅行などのゼミ活動を企画し積極的に参加する学生を強く希望します。 ***ゼミを希望するものは必ず説明会に参加するようにしてください。***

担　当　者	福井　幸男　ふくい　ゆきお
研究テーマ	データ分析と情報処理の理論と実践 －多変量解析－
使用テキスト	テキストは授業開始時に指示する
説明会等	ゼミ説明会を昼休みに開催する。 面談日などの詳細について、池内研究棟３階の 304 研究室ドアに掲示する。
概　要	（1）ゼミナールの考え ＝三年生のゼミ活動の流れ= ①　ビジネスデータの分析手法の理論と実習　　テキストとレジュメを使用して輪読する とくに、多変量解析の理論を研究する ②　実践的なビジネス問題をコンピュータで解いてみる　　計算して納得する （情報処理論、情報システム論の課題） ③　学生実験店の企画運営　　全員で団結する アントレプレナー実践活動の一環として今年も学生実験店舗を市内で開業します。 一昨年は台湾料理そして昨年はハワイ料理でした。これらの実践活動を通じて、知らず知らずのうちに皆さんの視野は広がり、教室での経営理論を体感される。 商店街との協議交渉により開催できないこともある。 （2）ゼミナールでする実践活動 ・　学生実験店舗の企画と運営（2002 年度より毎年春に夙川ｸﾞﾘｰﾝﾀｳﾝ商店街に２週間出店） 夏休みに千刈キャンプ場で合宿する （3）キャンパスを飛び出して、チャレンジしようという前向きの学生を求めます 物事に真摯に取り組むことができて、かつ時間的に余裕のある学生を希望します。 アルバイトを優先する学生はお断りします。 邦文文献とともに英文文献をテキストとして使用しますので、実力は問いませんが、やる気のある学生を求めたい。 （4）ゼミの基本コンセプト ・　アンケートデータを統計分析して、その経営上の含意を考えます。 ・　思い出一杯、青春一杯のゼミにしましょう！ （5）　要望 経済学、統計学および数学の各基礎科目の履修を勧めたい。面接の際には、成績通知書を持参してください。三年次、情報処理論、情報システム論を履修する

担　当　者	藤沢　武史
研 究 テ ー マ	国際マーケティング戦略＆国際経営戦略 ―理論研究とデータ分析とケーススタディの整合化―
使用テキスト	２年間で数冊を予定（3 年次開始前に指示する）
説明会・面談等	① 説明会；9 月 20 日（火）昼休みに商学部本館第 4 教室にて開催。 ② 個人面談；313 研究室にて実施。説明会の時に配布する資料を通してお知らせするとともに、313 研究室ドアに面談日程を張り出します。面接を受けられる方は、説明会時に配布されるゼミの詳細な学習・活動内容を理解しておくとともに、当ゼミ所定の志願書に必要事項を記載の上、面談時に持参すること。個人面談に先立ち、個人研究室ドア前に掲示された面接予約表にフルネームを記入し、面談日時を予約・確定しておいて下さい。9 月 20 日 17 時より面接を開始します。
概要 ［1］藤沢ゼミの基本理念と特徴	ゼミこそ**「学習する組織」**だという共通認識に立ち、与えられた学習機会を十分に活用して能力を高め、次の目的を達成していただきたい。第 1 に、ビジネス界などで要求されるデータ分析能力と事例研究能力を身に付ける。第 2 に、他大学生や外国人との研究・友好交流を通して、視野を広げ、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を優れたものにする。第 3 に、実業界の人と接し、研究や就職に役立つ次元の違った実務的な知識を吸収する。第 4 に、OB・OG となってから現役生に Mastery for Service という精神で接し、知識や経験を伝える。
［2］2011 年度の授業中学習事項	1）①ユーロモニター社 on-line date を用いた世界市場と国家競争力の分析－各国消費者の製品別消費量の時系列データなどから各国における製品需要の違いが何によって決まるのか（人口、GDP、国民 1 人当り総生産、ライフスタイル要因など）、国家の競争力の源泉は何にあるか、など SPSS を用いて統計分析。 ②財務データを用いて、企業の経営分析を実施。 上記の実習を通じて、世界市場機会を得るための細分化方法とその市場となる国家群と、世界市場で成功ないし失敗している企業との関連付けを試みたい。仮説を立て、データで検証するのが基本的狙い。(4 月～6 月) 2）上智大学との対抗ゼミ報告会用グループ研究（6 月中旬～9 月下旬） 3）国際マーケティング戦略の文献研究とケーススタディ（10 月） 4）英語による討論の準備(11 月) 5）企業ケーススタディのプレゼンテーション（11 月～12 月） 6）ディベート（12 月）　　7）卒論書き方の指導（1 月）
［3］対外活動	3 年次；①8 月下旬に 9 泊のアジア研修ツァー；タイや中国等に進出している日系企業を視察し、派遣管理者等にヒアリング調査を実施。他大学の国際経営研究ゼミも参加。②10 月上旬に上智大学との研究交流会、③11 月下旬に他大学との英語討論会、④11 月か 2 月に企業人との研究交流会
［4］選考基準	1 人 10 分程度の面接を 1 度ないし 2 度実施。＊積極的な学習態度を有し、リーダーシップと協調性に富み、ゼミに貢献できる人物を求めたい。

担　当　者	松本雄一
研 究 テ ー マ	人的資源管理・経営組織における人材育成・技能伝承
使用テキスト	中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社、2006 年。 松本雄一『組織と技能』白桃書房、2003 年。 その他、随時指定します。
説明会・面談等	ゼミを志望する方は、必ず一度面接を受けていただきます。その上で面接の結果と志望理由書により採否を判断いたします。 説明会は 9 月 20 日(火)　おひるやすみに D-203 教室にて実施いたします。 ぜひご参加いただいて、ゼミ選びの参考にしてください。 面接のスケジュールは説明会の場でご予約ください。こられない方はウェブサイトを参照の上、説明会のあとにメールで各自調整してください(説明会ご参加の方が優先します)。 ゼミとゼミ選考の詳細がウェブサイトにあります。必ずごらんください。 http://www.matsuyu.org/　(携帯でもみられます)

概　　要

企業にとっていちばん大切なのは人材であることは疑いのないところでしょう。みなさんも近々企業の人材になることになると思いますが、その使い方・使われ方を知ったり、みなさんがどのような制度で管理されるかを知ったりすることは、より豊かな企業での人生を送ることにとても役に立つことだと思います。

当研究室では、人的資源管理論・経営組織論を中心に、経営学にかんするさまざまなトピックを扱います。テキストの輪読とそれにかんするエクササイズ、組織マネジメントや人材育成のケース・スタディなどをおこないます。最近は技能形成とキャリアデザインの融合について考えています。こちらの方に関心がある方も歓迎です。最終的に「企業で学び成長できる人材」として、しぶとく生きていける人材になっていただくのが目標です。

3 年になるまでの間にも少しずつ活動したいと思います。また 3 年生の秋学期では、グループ単位で取り組むテーマを決めて、フィールド調査などを通じてデータを収集し、それをもとに分析した論文を書いた上で、他大学との合同ゼミで発表する機会を設けたいと思っています。その他ゼミで取り組むことは、ゼミ生自身に企画してもらい、どしどしやっていきたいと思います。

＜ご注意＞

- 当研究室では経営学の文献を読んでの発表会や卒業生のセミナー、大学の外へと出てのフィールドワーク(調査や見学活動)など、たくさんのゼミイベントがあります。そのときには何をさしおいてもゼミ活動を優先し、しっかり取り組む心構えをもってください。
- 結構取り組むことは多く、グループで集まって作業するなど忙しくなりますので、ゼミにあまり時間をかけられない方、ゼミよりもバイト優先などという方には不向きかと思います。

逆にゼミの友達と一緒にいろんなことをやってみたいという方は楽しくできるのではないでしょうか。当研究室はゼミ生の自主性がもっとも大切です。このゼミを楽しくするのもつまらなくするのもゼミ生のみなさん次第です。教員はあとについていくだけです。できれば大学生活の一番の思い出になる、有意義なゼミにしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

担　当　者	水　野　敬　三
研究テーマ	ゲーム理論の学習と経営・経済問題へのその応用
使用テキスト	(1) 「ゲーム理論入門」武藤滋夫著，日経文庫. (2) 「ゲーム理論・入門」岡田章著，有斐閣アルマ.
説明会・面談等	説明会と個別面談を行う．（その実施日時・方法は，研究室のドアに掲示する文書で案内する．）
概　　要	**演習の目的：** ゲーム理論を学ぶ. ＊ゲーム理論は，個別主体の行動が（その主体が属する）システム全体に及ぼす影響や結果を分析・予測しようとするものである．この理論は，経営学・経済学・社会学・生物学等で用いられている. **演習の進め方：** ３回生時，ゲーム理論の基礎を勉強する．初めに，上記のテキストを解説あるいは輪読する．各章ごとに，ゼミ生は演習問題の解法や考え方を説明・報告する．基礎理論学習後，経営・経済問題へのゲーム理論の応用研究を行う（グループ学習）．その研究成果を１２月に実施する他大学との合同研究報告会で発表する. ４回生時の毎回のゼミは卒業研究の中間報告である．卒業研究を卒業論文としてまとめる. **担当教員からの希望：** ゼミは教員と学生の真剣勝負の場である．ゼミの面白さは，その真剣勝負の場を通じて，「学問・研究の奥深さ」を知ることにある．学問・研究の奥深さは，解答の得にくい難問・研究課題と格闘し，苦しみ，そこから一筋の光明を見出したときにしか知ることができないものと心得よ. 数学やゲーム理論の勉強には「慣れ」と「忍耐」が要求されるので，辛抱強く，真摯な勉学姿勢を持つ学生の参加を望む.

担 当 者	深山　　明

研 究 テ ー マ

経営学の基本問題

使 用 テ キ ス ト

①大月博司、高橋正泰、山口善昭『経営学』第三版(同文舘出版)、2009 年。
② D. シュナイダー著・深山　明訳『企業者職能論』(森山書店)、2008 年。
③吉田・大橋監修、深山・海道・廣瀬編『最新基本経営学用語辞典』(同文舘出版)、2011 年。

説 明 会･面 談 等

①履修希望者に対する説明および面談は、研究室（第２教授研究館３３６号室）で随時行う。
面談可能な時間帯については、９月２０日以降に研究室のドアに掲示する。
②説明会は次のとおり実施する。

日時および場所	９月２１日（水）１２：４５～	商学部	３号教室
	２２日（木）１０：３０～	商学部	３号教室

概　　要

「研究演習Ｉ」においては、まず、上記のテキスト①、②、③を用いて、経営学の基本問題（ 経営学とはどのような学問か、企業とはどのようなものかという問題）についての理解を深める。そのために、経営学の対象と課題、経営学の方法、企業目標、生産、販売、財務、管理などのさまざまな領域に関する問題について考察する。さらに、現実の企業経営をつねに意識しながら、企業支配、企業戦略、企業と地球環境、企業の社会貢献、トヨタ・システムなどの今日的な問題をも取り上げる。そして、これらの問題の中から適当なテーマを選択し、それらについて考える合宿なども行いたいと考えている。最近、敵対的Ｍ＆Ａ、コーポレート・ガバナンス、ＣＳＲなど株式会社の本質に関する問題が注目されている。また、このようなことに関わる事件が現実に起こっていることは周知の通りである。経営学を勉強する者は株式会社についての理解を深めなければならない。演習においては、株式会社を理解することに力を注ぎたい。秋学期には、企業見学、企業でのセミナーを実施する。また、研究演習の目的を達成するために、さまざまな方法、多様な手段を利用することにする。

「研究演習Ⅱ」においては、各自が自由に関心のあるテーマを選択し、ゼミでの報告・討論を行って、卒業論文の作成にあたる。

いま、世の中が、想像以上のスピードで激しく変化している。このようなときにこそ、基本的なものの考え方を確立することが必要である。単なる知識の習得は、それほど意味のあることではない。思考する能力を身につけることが重要である。このことを念頭に置きながら、経営学の基本問題について学ぶことにしたい。

参考書などについては、授業開始後に指示する。文献・資料の探し方、報告のやり方、論文・レポートの書き方、などについては必要に応じて指導する。

学生諸君の熱心な報告・討論を期待する。また、各種の行事への積極的な参加を希望する。

担　当　者	山　口　隆　之
研究テーマ	中小企業経営研究
使用テキスト	未定
説明会・面談等	説明会：９月２０日(火)　１０：４０～　商学部３号教室 面談：下記※参照
概　　要	日本の企業の９９％以上は中小企業である。したがって、日本経済や、来るべき社会を展望するに、中小企業への理解は不可欠といえる。 われわれは、中小企業についての漠然としたイメージを共有している。しかし、実際に中小企業とは何か？今後の展望は？と質問されれば、そこに一様な回答を期待することは難しい。 この理由は、中小企業が人間サイズの企業、といわれるように、経営者やそこで働く個人の性質、あるいは地域の文化や風土に少なからずの影響を受けながら経営を行わざるを得ないという事実に求められる。つまり、中小企業やその経営のあり方は多種多様であり、かつそこにこそ、中小企業の中小企業としての存在意義がある。 本講義（山口ゼミ）では、こうした人間の臭いのする多種多少な中小企業を理論的・歴史的・実証的に分析・検討し、中小企業の本源的な役割、あるべき姿、あるべき政策などを学生とともに考えてみたい。 （注意事項） ① 講義以外にも、フィールドワーク、ゼミ旅行、イベントなどがあります。これらも含めて**ゼミのスケジュールは最優先で欠席は厳禁**です。 ② ゼミに愛着を持つ人、少なくとも愛着を持とうと努力する人を希望します。充実したゼミにしよう、という意欲の強さをゼミ生全員に求めます。 ※９月下旬に池内記念館の山口研究室のドアに「面談スケジュール表」を掲示し、「志望理由書」を用意しておきます。「面談スケジュール表」の希望日時に氏名と学生番号を記入し、面談当日は、記入済みの「志望理由書」を持参して下さい。

担　当　者	渡辺　敏雄
研究テーマ	**事業企画・従業員満足・顧客創造**
使用テキスト	J. ミッチェル著(小川訳) **『顧客も社員も「大満足」と言ってくれる５つの原則』** (日本経済新聞出版社、2009 年)。
説明会・面談等	**説明会**を次の通り開催します。 **9 月 20 日(火)　12 時 50 分～**　商学部本館 3 号教室 **9 月 22 日(木)　12 時 50 分～**　商学部本館 3 号教室 **面談の日程**については、**研究室のドアに掲示**しますのでそれを見て下さい。
概　要	**(1)ゼミの研究内容について;** 従業員が事業に同意し満足しなければ、顧客は付いてこない。これは一見当然です。しかし、**従業員満足と顧客満足との関係**はどのようになっているのでしょうか。 この関係を深く学んでいって、そのことによって現代ビジネスの姿や基本を学びませんか。 使用テキストの著者は、アメリカの洋服店で成功を収めた経営者です。ですからこの本は、成功した経営者のビジネス本なのです。ところが、内容は、従業員満足と顧客創造が関係しているという、最近の戦略論のトピックスのひとつである**「企業の事業領域に関する合意」(ドメイン・コンセンサス)**についての読み易く、本格的な書物となっているのです。 この本の章は、「誠意を尽くす」、「信頼する」、「誇りを持つ」、「つながる」、「認める」となっていて、各章では具体例をあげながら論述されています。全体を通して、**企業が計画した事業企画をまず社員に理解してもらい**協力体制を作った上で、**顧客創造ができあがるという企業内外のコンセンサス連関の意義**を学ぶことができます。 **(2)ゼミの運営について;** 最初はテキストを 5 人位の**グループで要約発表**してもらい、全員で**討論**します。その際、単に要約だけではなく、各自で調査したことや感じたことを追加して創意工夫の上での報告を要求します。 テキストを読み終えたら、グループに分かれ**それぞれの関心に従って自由研究をしてその成果を報告討論します**。その時には、グループで共通のテーマ、例えば、同種系の企業のケースや、経営理論等でまとまって、そのテーマについて学び、報告討論をします。その結果を年度末のレポートにして、さらにそれを **4 年の研究演習Ⅱの卒業論文テーマに繋げていきます。** 夏には、合宿をして勉強をします。秋には、就活の経験談や卒論の進め方等を先輩から学ぶために、4 年ゼミ生と交流する時間を持ちます。

５．第二教授研究館（池内記念館）について

第二教授研究館（池内記念館）は、教員の研究施設です。研究演習選択のために教員の個人研究室を訪問する際には、研究活動の妨げにならないよう、廊下では、話し声を控え、足音にも注意してください。

また、廊下に座り込んだり、入り口付近で待ち合わせたりの行動は厳に謹んでください。